令和４年１０月５日（水）　後期始業式のあいさつから

さて、「「〇〇の秋」とよく言われますが、「読書の秋」に関係してある図書館に立ち寄って感動に似たものを受けたことについて話します。私が建築で感動したものは、「福井県の恐竜博物館」以来でした。

それは、今年の７月に開館したばかりの「石川県立図書館」。小刻みに斜めに配置された雁行（がんこう）している外壁を持つほぼ正方形の外観の構造にまず驚きました。それ以上に驚いたのが内部の構造です。「ビブリオバーム」と呼ばれ、木の切り株のような空間、そして、すり鉢状に２階、３階、４階が見える。まるで古代ローマのコロッセオ。さらに卓越だと感じた点が、３階を結ぶ空中廊下。円形を上手く利用した部屋の配置も初めて見るものでした。

こんな設計を考えることが出来る人は一体誰なのかと興味を持ち調べてみました。その人は、仙田満（せんだみつる）さんという方で現在８０歳。実際に設計した２，３年前でも７７、７８歳。この年齢にさらに感動しました。
御本人には失礼ですが、「どうして、そんな齢で、こんなすごい建築が設計できるのか？」と、もっと調べてみました。「人にとってのよりよい空間づくり」、「この地域・場所で適している街はどのようなつくりか」を考える学問を「環境デザイン」と言いますが、この学問領域を最初に創った方だと分かり、さらに感動しました。
そして、子どもたちが元気に育つ環境づくりを「成育環境デザイン」と言いますが、その第一人者として現在も研究を続け、さらに日本建築学会や日本建築家協会の会長も務めるなど建築の最前線で活躍されています。

「今までにない新しい学問領域を創る」「ご高齢でも最前線で活躍されて、人に感動を与える仕事をしている」、どうして、そんな凄いことが可能なのか。
仙田さん自身は、「大学進学の時に建築学科を選んだのは、今考えると、理系文系関係なく学校でやってきたことが生かされると考えたから」、「与えられた仕事に真摯に打ち込んだ結果、自然に多彩な領域に挑んでいった」と言っています。

ここから私が考える点は、「いつまでも学び続ける姿勢」が大切なこと。
そして、皆さんにとって「今やっていることが、将来どう役立って、自分に関わってくるかはわからないけど、今、現在、学校やそれ以外でも取り組んでいることに真摯に精一杯向き合って欲しい」ということです。

これから始まる新学期に向けての皆さんに期待します。